

都小 研小 会報

・発行所
・東京都小学校社会科研究会
・東京都世田谷区等々力7-26-1
・発行人 月岡正明
・編集人 赤尾眞司

都小社研研究発表会を終えて

東京都小学校社会科研究会会長
世田谷区立等々力小学校長

月岡 正明



二月二十四日、葛飾区立柴又小学校で、「平成二十八年度東京都小学校社会科研究会研究発表会」を開催いたしました。三年生から六年生まで、社会科の公開授業と全体発表会を行い、二百四十五名の参加者のもとで成功裏に終えることができました。

講師の澤井陽介先生(文部科学省視学官)、小須田哲史様(東京都教職員研修センター企画統括指導主事)、塩澤雄一様(葛飾区教育委員会教育長)、中川久亨様(葛飾区教育委員会指導室長)

はじめにご来賓、都小社研顧問・OBの皆様にはご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度の研究発表会は、会場校である葛飾区立柴又小学校の教員が四学級、都小社研の研究推進委員が四学級、計八学級で授業を公開しました。授業に当たっては、柴又小学校の教員、各学年部の研究推進委員、助言者校長が、授業の事前研究を数多く行いました。地域教材を活かしたり、都小社研の研究理論や実践に沿った形で授業提案を行ったりすることができました。

参観者に都小社研の研究の一端を伝えることができました。各学年部会の研究発表も、新しい研究副主題を意識した充実した内容になりました。全国に先駆けて新しい学習指導要領の

内容を具現化しようとした研究や実践の一端を示すことができました。しかし、限られた時間の中で、何を焦点化して示すのかについては、やや課題が残りました。来年度は、それを改善し、分かりやすい発表内容にしていきたいと思います。しかし、授業や研究発表を通して、次の東京大会に向けての人材育成や、都小社研の組織の基盤づくりも進めることができました。

澤井先生の指導・講評では、十分に時間の取れないなかでしたが、示されたばかりの新学習指導要領の読み取りのポイントを的確にお話いただきました。また、当日公開された授業や各学年部会の研究内容にも触れていただきました。改めて、新学習指導要領のもとで、都小社研の研究の進むべき方向性を確認することができたいと思います。今後は澤井先生と常に連携し、新学習指導要領の具現化に向けて取り組んでいきたいと思います。

結びに、会場校の葛飾区立柴又小学校の教職員の皆様、本研究発表会に参加いただいた方々に厚く御礼申し上げます。本研究の成果を各地区や学校で広めていただければと思います。

都小社研研究発表会報告

東京都小学校社会科研究会調査研究部長
台東区立忍岡小学校校長

吉藤 玲子

平成二十五年度に東京で行われた全国大会研究主題「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育」を引き継いで三年目になります。社会認識を深め、参画意識を培うための手立てとして育てたい子供の姿の明確化、教材の開発、指導の工夫、評価の工夫、「ふかめる」段階の設定を柱に実践を重ねて来しました。

本年度の研究は、研究副主題を「社会的事象の見方・考え方をを用い、社会認識を深める学習を通して」と改め、今までの研究に次期学習指導要領改訂に向けた部分を取り入れスタートしました。①「見方・考え方」の追究を生かした「問い」の設定②社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力の育成③資質・能力を育む学習指導の工夫の三つの視点を定め実践授業を行ってきました。

三年部会の授業では、子供が販売者側と消費者側の視点に立つて多角的に販売の仕事について考えました。四年部会の授業では、自分が出したゴミがどのようになっていくか、関連図を活用して相互関係的に考えました。五年部会の授業では、「問い」の構造に着目し、この「問い」を追究していくどのような知識が得られるかを教師が想定し、授業を行いました。六年部会の授業では「ふかめる」段階で東京駅建設と復元を題材に百年前、これから百年後に続く人々の思いについて考えました。「ふかめる」段階が、学んだことを社会に近づける段階につながった実践でした。各学年が二本ずつの実践を行い、見方・考え方を工夫することによって、子供たちの「社会事象についての知識・技能」「社会的事象についての思考・判断・表現」「社会的事象に関わろうとする姿」の資質・能力を育てる研究を進めてきました。その成果を発表会の内容と併せて平成二十八年度版『新しい授業の創造』でぜひご覧ください。

都小社研 研究発表会

第三学年

研究主題

「よりよい地域にしたい」と願う子供の育成」
～自分と地域の人々のかかわりを捉え、考えをふかめる指導の工夫～

一 研究のねらい

調査・取材、観察・見学、体験的な活動を通して、自分と地域との関わりを捉えることが、社会認識を深めることにつながると考え、主題・副主題を設定した。今年度は、位置や空間的事象を関係付ける「指導の工夫」多角的に考える力を育む「学習過程の工夫」に重点をおき研究を進めた。

二 実践の内容

○「多摩市の様子」

「つかむ」段階では、地図や写真資料から学習問題を予想し、地形・土地利用、交通などを調べる内容の学習計画を立てた。

「調べる」段階では、計画をもとに学習を積み重ねて、位置や空間的な事象を関連付けて考えることができた。「まとめる」段階では、学習問題に対する答えをまとめ、最後に市のお気に入りの場所を経済観光課の人に

伝える活動を行ったことで、地域社会への参画意識につながる愛着が芽生えた。

○「私たちのくらしと買い物」

「つかむ」段階では、スーパーマーケットの売り場の時間帯、曜日による様子の違いに着目し、学習問題をつくった。「調べる」段階では、販売者の立場で学習を進め、学んだことを消費者に確認するという形をとることで、自然に立場を変えて考えられた。結果、「まとめる」段階以降で、両者の立場から思考しやすくなった。「ふかめる」段階では、販売者・消費者の立場をふまえて、よりよいお店にするアイデアを提案する活動を行い、地域の一人員として参画意識を育むことができた。

三 成果と課題

重点項目の手立てによって、育てたい子供の姿にせまることができた。今後は、社会的な見方・考え方を働かせて地域社会を見るための指導法、より「ふかめる」段階の授業構成を練り上げていくことを意識したい。

(板橋区立志村第一小学校)

主任教諭 渡辺 智史

第四学年

研究主題

「よりよい地域社会について考えようとする子供の育成」
～自分とのかかわりで地域社会を捉え、表現しながら考えを深める指導の工夫～

一 研究のねらい

よりよい地域社会をつくらうと努力、協力している人々の働き、地域社会を支えている社会の仕組みや特色、意味などを自分とのかかわりで考え、その考えを表現しながら、さらに深めていくことが大切と考え、本主題を設定した。今年度は社会的事象の見方・考え方を意識した「問いの明確化」、「表現活動の工夫」に重点を置いて研究を進めた。

二 実践の内容

○「ごみのしまつと再利用」

本実践では、学習問題をつくる際、時間的な見方・考え方を活用し、「ごみが処理されなかつたらどうなるのか」、地域の健康な生活と関連付けて問題意識を高めた。「調べる」段階では、「自分たちの生活」と関連させながら図にまとめる表現活動を繰り返し取り入れた。「ふかめる」段階では、区役所、地域の工場、住民など、様々な立場の人々が協力してごみの減量に取

り組んでいることを提示したことで、相互関係における見方・考え方を活用し、参画意識を高めることができた。

○「地震からくらしを守る人々」

本実践では、市役所、学校、地域の連携や協力を調べることで、地震からくらしを守る取組について学習した。「関連図」にまとめる活動を継続したことにより、子供たちは相互関係に着目した見方・考え方を活用しながら理解を深めていった。「ふかめる」段階では、総合防災訓練における参加者不足という課題を取り上げた。「関連図」の中に自分を位置付けて考えさせたことで、自分は地域の一人員としてどのように関わっていけばよいか考える姿が見られた。

三 成果と課題

社会的事象の見方・考え方を活用して、子供にもたせたい「問い」を明確にしたことにより、子供たちの思考の流れを意識しながら学習を展開することができた。社会的事象の見方・考え方を活用する力を育む指導と評価の一体化について、今後も研究を充実させていきたい。

(小金井市立小金井第三小学校)

主幹教諭 田村 忍

第五学年

研究主題

「よりよい社会について考えようとする子供の育成」
～国土や産業の姿を追究し、社会の一人としての考えを深める指導の工夫～

一 研究のねらい

現実の社会に対する確かな認識をもたせ、社会の望ましい在り方を考えようとする姿勢を育てていくことが大切と考え、本主題を設定した。

今年度は、「見方・考え方(追究の視点)を生かした教材分析」や「問いの設定」、「思考を促す学習活動」などを中心に研究を進めた。

二 実践の内容

○「これからの食料生産とわたしたち」

本実践は、食料生産の大単元における「ふかめる」位置づけとした。そこで、日本の食料生産に希望をもち、未来を考えられるように、農業の大規模経営化や第六次産業、技術開発と輸出などを教材化した。

「つかむ」段階の学習計画を作る際、追究の視点を生かした問いを設定したことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。

○「情報産業とわたしたちの暮らし」

本実践は、放送局による災害報道を事例として取り上げた。「つかむ」段階で、時期の異なる災害報道の動画の違いから

生まれた疑問を、時間的な視点、空間的な視点、相互関係的な視点に分類・整理したことで、三つの視点を生かした学習問題と問いを見出すことができた。また、関係図に整理したことで、自分たちと被災地の視聴者が「安否の確認」や「支援」で結ばれることに気づき、放送局を通して人々の相互関係について考えを深めることもできた。

三 成果と課題

社会の発展のために熱意をもって働く人の姿が見える事例を取り上げたことで、時間的・相互関係的な視点に着目しながら生産者や消費者、放送局で働く人と視聴者など、様々な立場を関連付けて考えて社会認識を深めることができた。社会的現象の見方・考え方の用いさせ方や指導と評価の一体化に関しては、今後とも研究を充実させていく必要がある。

(江東区立越中島小学校)

主幹教諭 沢畑 慶介

第六学年

研究主題

「よりよい社会を」
「つくろうとする子供の育成」
「自分と社会とのつながりを実感し、進んでかかわろうとする授業の工夫」

一 研究のねらい

小单元において習得すべき知識を構造的に整理し、育てたい子供の姿を明確にした。それをもとに、どのような見方・考え方を活用しながら授業づくりをする必要があるのかを考え、授業を組み立てた。その中で、社会認識を深めることをねらった。「ふかめる」段階に重点を置いた。その際に、「まとめる」段階までで学んできた知識を活用しながら、視点や立場を変えて社会的現象を見たり考えさせたりした。そのような活動を積み重ね、将来、自分が考えたことを社会に発信したり提言したりすることができる子供が育つのではないかと考え、研究を進めた。

二 実践の内容

○三人の武将と全国統一

「ふかめる」段階で三人の武将の城づくりを取り上げた。それぞれの武将の業績について学んだ内容をもとに、城づくりの

意図(軍事・経済・政治面)を考えることにより、平和な世の中をつくらうとする人物の働きについて関心を高めることができると考えた。

○世界に歩みだした日本

「ふかめる」段階で、約百年前に建設され現代まで受け継がれている、東京駅丸の内駅舎を取り上げた。東京駅の完成後から現在までの歴史を調べ、さらに、現在の復元工事の様子について調べたことで、過去の歴史と現代とのつながりについて関心をもつことができると考えた。

三 成果と課題

成果は、「まとめる」段階までに獲得した中心概念をもとに、社会認識を深めることをねらい、「三人の武将の城づくり」と「東京駅の設計・建築と復元工事」を取り上げ、その意図や願いを捉えさせたことよって、新たな視点で社会的現象について考えることができた。課題としては、各小单元で扱う教材や学習内容について、社会的現象の見方・考え方をどのように用いているのかを、児童の姿から考察する必要がある。

(世田谷区立北沢小学校)

主幹教諭 田内 利美

研究発表会

指導講評

文部科学省教科調査官

澤井 陽介先生

二月一四日に公表された新学習指導要領の読み方を解説したい。

今回の改定では、全教科、三つの資質・能力で整理されている。

●新指導要領の記述形式

教科目標、各学年目標の記述形式も三つに分けられている。リード文には、全て「社会的な見方・考え方」、「問題解決」が記述されている。教科目標では、小中校共通で「社会的な見方・考え方」、「課題を追究・解決する」となっている。

第三学年の目標では、「地図帳」等を通して「調べまとめる技能」を身に付けるとある。また、「判断力」というのを明確に入れて、「よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度」という形で整理をしている。

第五学年の目標では、地図帳に加えて「地球儀」が入る。また、「多角的」も入ってくる。小学校では、立場をいろいろと変えて考えていく上で多面的に捉えることができるようになるの

で、五年の段階でまず「多角的」に捉える。また、「説明したり、議論したり」というのが明確に記述されている。五・六年で新たに入ったものとして国民としての「自覚」がある。

内容では、教える知識内容から、「指導内容」に変わったと捉えてほしい。今までの形では、「考えるようにする」という記述だったため、何が思考で何が理解かという点で明確ではなかった。(ア)(イ)(ウ)の記述内容は、小单元をイメージした構成にしたことが新しい。

「内容の取扱い」では、地図帳が第三学年から配布されるので、「スーパーマーケット」などの学習において効果的に使われるようにしてほしい。

●社会的な見方・考え方

社会的現象の見方・考え方は、「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」に着目して、国民生活と関連付けるというプロセスが大事であって、「見方・考え方が在りき」で考えるものではない。子供が、働かせるものがある。そのために教師が手立てを考えることが大切である。

(文責 品川区立日野学園)

教諭 荒井 秀人

各地区の取り組み

港区 研究主題

「社会生活の意味について自ら調べたことや自分の考えを表現し、協働して課題を解決していく児童の育成」

―問題解決的な学習の充実を―
 目指した授業研究を通して―

歴史の流れの中に児童自身を置き、実感的に歴史的事象を捉えさせることができた。以上の実践から、当事者意識や社会参画意識を高め、問題解決能力を育成できた。

(港区立芝浦小学校
主任教諭 高本 靖子)

豊島区 研究主題

「すすんで問題解決学習に取り組む子供を育てる社会科学習」

社会的なもの見方・考え方を育む指導の工夫

本年度は、四本の研究授業を行い、安野功先生と梶井貢先生にご指導をいただいた。

一 研究の内容
 (1) 主体的な追究を促す教材の工夫

①児童にとって身近な教材の工夫・開発 (五年「情報」番組制作者「保護者」、六年「江戸文化」落語家「卒業生」)

②教科書資料の効果的な活用 (四年：東京都)

(2) 考えを深める学習活動の工夫

①問題解決の見通しをもたせる学習活動の設定 (三〜六年)

【実践3】六年「新しい日本、平和な日本へ」では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの意義を考えることで、

②学習を振り返る活動の充実 (三〜六年)

(3) 子供の考えを把握し、指導に生かす評価の工夫

①評価・支援計画の作成と活用 (三〜六年)

二 成果と課題

身近な地域や分かりやすい資料を活用することで、児童が学習問題を解決するために主体的に追究していく姿が見られた。

今後は、学年や単元における児童の社会に参画する意欲を高める教材の工夫や活動の充実を行っていく。

(豊島区立豊成小学校
校長 高橋 慎二)

日野市 研究主題

「子どもが知りたい、調べたい、考えたいと思える社会科学習」

―子どもの心が動く教材と発問を目指して―

これまで本市では、社会科における問題解決的な学習の進め方について継続して研究を進めてきた。今年度は研究の中心を教材と発問の二つに絞り、五本の研究授業を行った。

【実践1】六年「新しい時代の幕開け」

ペリーが来航した際の黒船と日本船の比較を教材化した。

【実践2】四年「多摩動物園を作った人々」

学校の近くにある動物園を教材化し、郷土の発展に尽くした人々の働きを追及した。

【実践3】「染物のまち、新宿」

新宿区の東京染小紋について、実際に職人にインタビューし、そのビデオを教材として使った。

【実践4】六年「平和で豊かなくらしを目指して」

歴史学習の最後の時間として、歴史を学ぶ意味について話し合い活動を行った。

【実践5】五年「私たちのくらしと情報」

医療現場における情報ネットワークの活用が患者の命を救うのに役立つっていることを資料から捉えた。

(日野市立日野第八小学校
主任教諭 新宅 直人)

国立市 研究主題

「問題解決的な学習過程を重視した指導法の工夫」

―学習計画を立てる段階を中心として―

を進めている。教員同士が学習過程や指導方法を共有しながら、授業づくりを中心に研究に取り組んでいる。

今年度は、児童・生徒が問題意識を継続させながら、より主体的に問題解決的な学習に取り組むことができるようにするための指導法について研究に取り組んだ。

【実践1】五年「水産業のさかなな地域」では、資料から日本の水産業の問題点に気づかせ、学習問題を考えさせることができた。学習問題に対する予想を交流させながら整理していき、児童の予想に基づいて学習計画を立てることができた。

【実践2】六年「新しい時代の幕開け」では、世の中の様子が大きく変化した様子を資料で捉えさせ、学習問題を考えさせることができた。世の中の様子が大きく変化した理由について、「黒船来航」などの資料を基に予想させ、それを基に、時代の変化に最も関係のあるものから調べていく学習計画を立てることができた。

(国立市立国立第三小学校
主任教諭 友廣 幸樹)

本市では、小・中合同で研究